

令和5年度PTA活動振興功労者

(小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校、私立幼稚園、認定こども園 PTA 部門)

被表彰者

【濱添 なおみ(長崎市PTA連合会 元会長)】

長崎市 PTA 連合会の会長として、連合会と教育委員会の潤滑な連携を図り、児童生徒の教育環境がよりよいものとなるよう、両者の定例会開催や積極的な情報交換に努めた。また、PTA の在り方の見直し、組織や活動の精査を訴え、PTA の目的を意識しながら活動することの重要性を啓発し続けた。中学校の PTA 会長としても、地域内の小学校やその PTA との連携の中心的な役割を担い、様々な行事の実施や PTA 会員の意識向上に努めた。常に、地域の中で子どもを育てるということを念頭に置き、どの活動にも誠意をもって取り組んだ。

【山本 道雄 (長崎県PTA連合会 前会長)】

長崎県 PTA 連合会の会長を 4 年間務め、コロナ禍において通常の活動が困難な中で、将来を見据えた改革案を組織的に作りあげた。この功績は大きく、現在もこの改革案に基づいた改革が進行中である。

また、長崎大学教育学部の学生に「保護者とのかかわり方」等、PTA に関する講義を行ったり、教員の初任者研修で PTA 会長が話す機会を設けるように県教育委員会に働きかけるなど、教師と保護者との関係づくりに尽力し、教育環境の向上に努めた。

【森 百合子 (佐世保市 PTA 連合会 前会長)】

佐世保市 PTA 連合会において、本部役員の負担を軽減すべく、改革を行った。また、学校や地域との関わりを大切にして、相互理解と連携を深めながら、大人が意識を変え、子どもを中心に、時代に合った関わり方を再構築していくことの大切さを啓発し続けた。

母親目線を大事にしている母親部会の活動に積極的に取り組み、PTA 活動の「目的」「意義」を意識した取組は多くの会員に受け入れられ、市 P 連母親部会主催の「チャリティーバザー」や「音楽祭」の取組は盛況を極めた。